

現況写真 (利用過多も課題)

完成予想図

**梅小路公園——変化する公園**

梅小路公園は、1995年に開園した、緑の少ない京都の市街地には貴重な緑地です。2012年に京都水族館が開業し、2016年春には京都鉄道博物館も開業します。現在の年間400万人以上の来園者が、今後さらに増えると予想されます。

**現況の植栽と課題**

約140本の「梅林」、園芸療法の視点で運営する「セラピーガーデン」、花畑の風景をつくる「花の丘」、蝶を呼び込む「バタフライガーデン(みどり花壇)」などがあります。復元型ピオトープ「いのちの森」と日本庭園「朱雀の庭」(有料区域)では、希少な「和の花」の生息域外保全に取り組み始めています。開園時の植栽は、整備等により年々変わり、利用過多の悪影響も。また、公園全体としては、生物多様性への配慮ができていません。今後どのような「花と緑」とし、それにより、いかに来園者を迎えるかが大きな課題です。

**企画の目的**

来園者には、①無料の区域で、香りのする季節の花に触れ、ほっとしていただきたい、また、②京都の生活文化と切り離せない「和の花」を子どもたちやその家族などに知っていただきたい、と考えています。

**和の花とは**

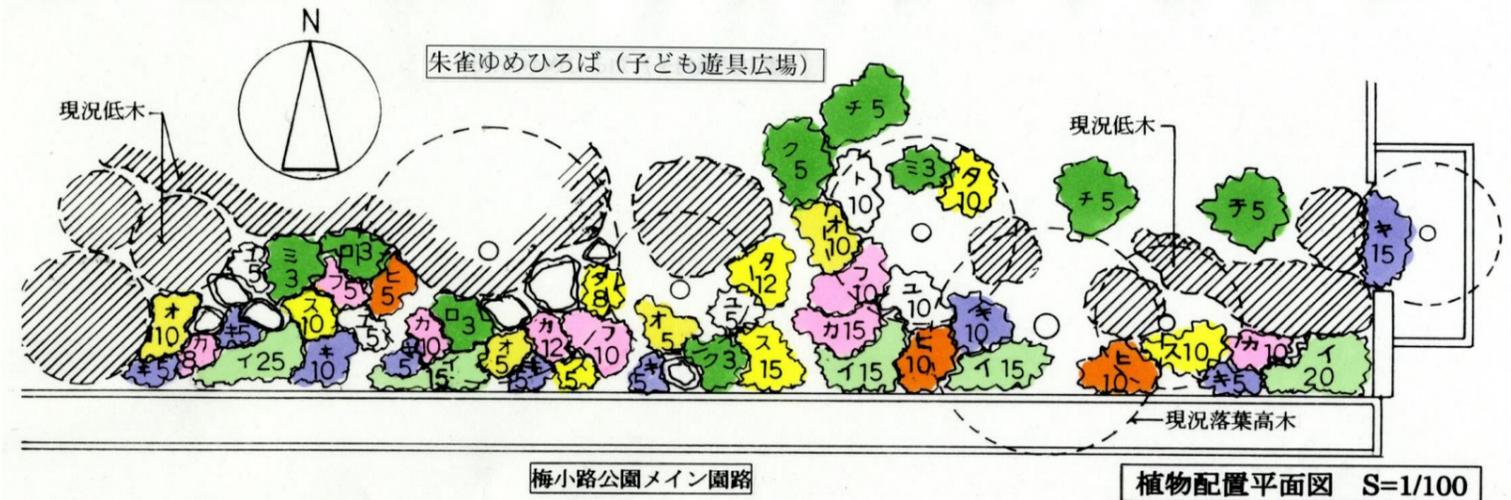
古くから自生又は江戸時代までに渡来し、長年にわたり日本の風土の中で育ってきた植物(在来植物)や、伝統的な園芸技術で育てられてきた植物をいいます。

**コンセプト・香りの活用**

- ◆**デザイン**……メイン園路沿いの植栽帯の約60mの中で、既存のイロハモミジ等の樹間と林床に、香気がある樹木4種と草花10種を自然風に植栽します。南側の「朱雀の庭」の景観にも配慮し、四季の花が楽しめる、ほっと和める植栽とします。
- ◆**京都産の希少な植物**……フジバカマ、キクタニギク等希少種を含む7種は、京都市内の自生株に由来する苗を使用。
- ◆**利活用**……説明板で植物の特徴や生活文化との関わりを紹介。シリーズの「子ども自然観察会」の中で、香りの植物を学び、収穫して利用するなど親しむ機会をつくれます。
- ◆**維持管理**……植栽の管理、植付けは、公園ボランティア、イベント参加者等の協力を得て行います。
- ◆**広がり**……和の花を広げ、統一感につなげるため、「梅林」周辺、「セラピーガーデン」等の他のスペースにも、同じ草花の補植を行います。

**例えばこんな花を使います**

- ◆**フジバカマ(藤袴)** キク科  
源氏物語にも登場する秋の七草の一つ。一般に流通するのは別種。葉は香料となり、防虫剤、入浴剤としても使いました。
- ◆**オミナエシ(女郎花)** スイカズラ科  
秋の七草の一つで盆花に使われます。花の香りは良くはありませんが、生薬となります。
- ◆**キクタニギク(菊溪菊)** キク科  
京都東山から流れ出る菊溪の水辺に咲いていたと伝わります。若葉に清々しい芳香があり晩秋に明るい小さな花を次々と咲かせます。
- ◆**ヒオウギ(檜扇)** アヤメ科  
祇園祭に合わせるように咲き、厄除け・魔除けとして街で飾られます。



記号	植物名	数量	記号	植物名	数量
ク	クチナシ	8	カ	カワラナデシコ	55
ジ	ジンチョウゲ	15	キ	キキョウ	65
ミ	ミツマタ	6	タ	キクタニギク	30
ロ	ロウバイ	6	テ	テッポウユリ	25
イ	イブキジャコウソウ	90	ス	ニホンスイセン	40
オ	オトコエシ	10	ヒ	ヒオウギ	25
オ	オミナエシ	30	フ	フジバカマ	25

